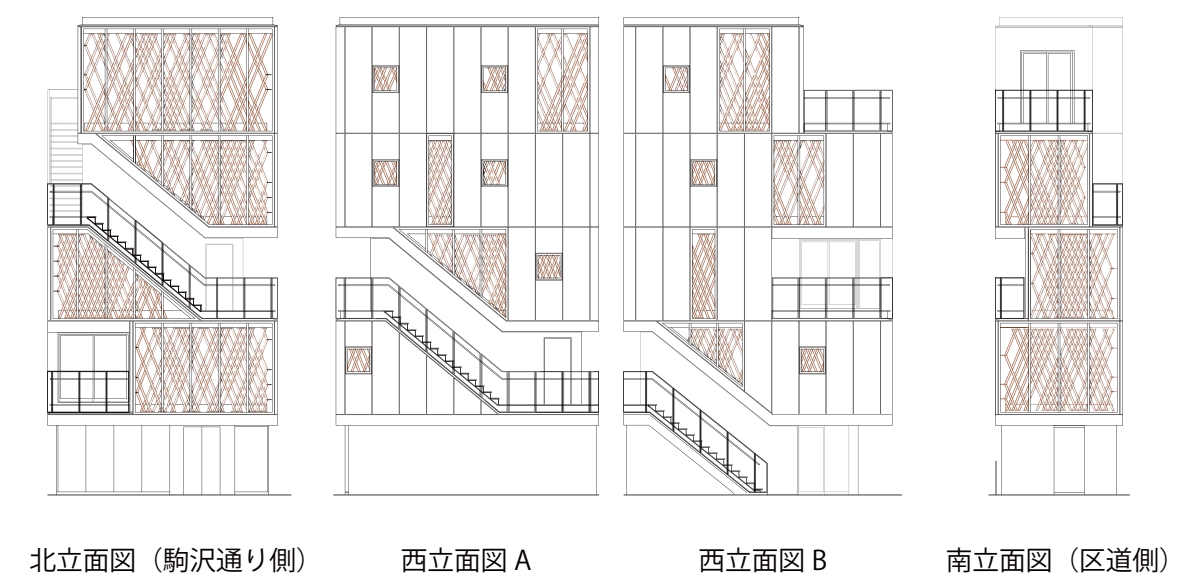




下馬の集合住宅

東京世田谷区の準防火地域に建つ、5階建ての木造集合住宅である。

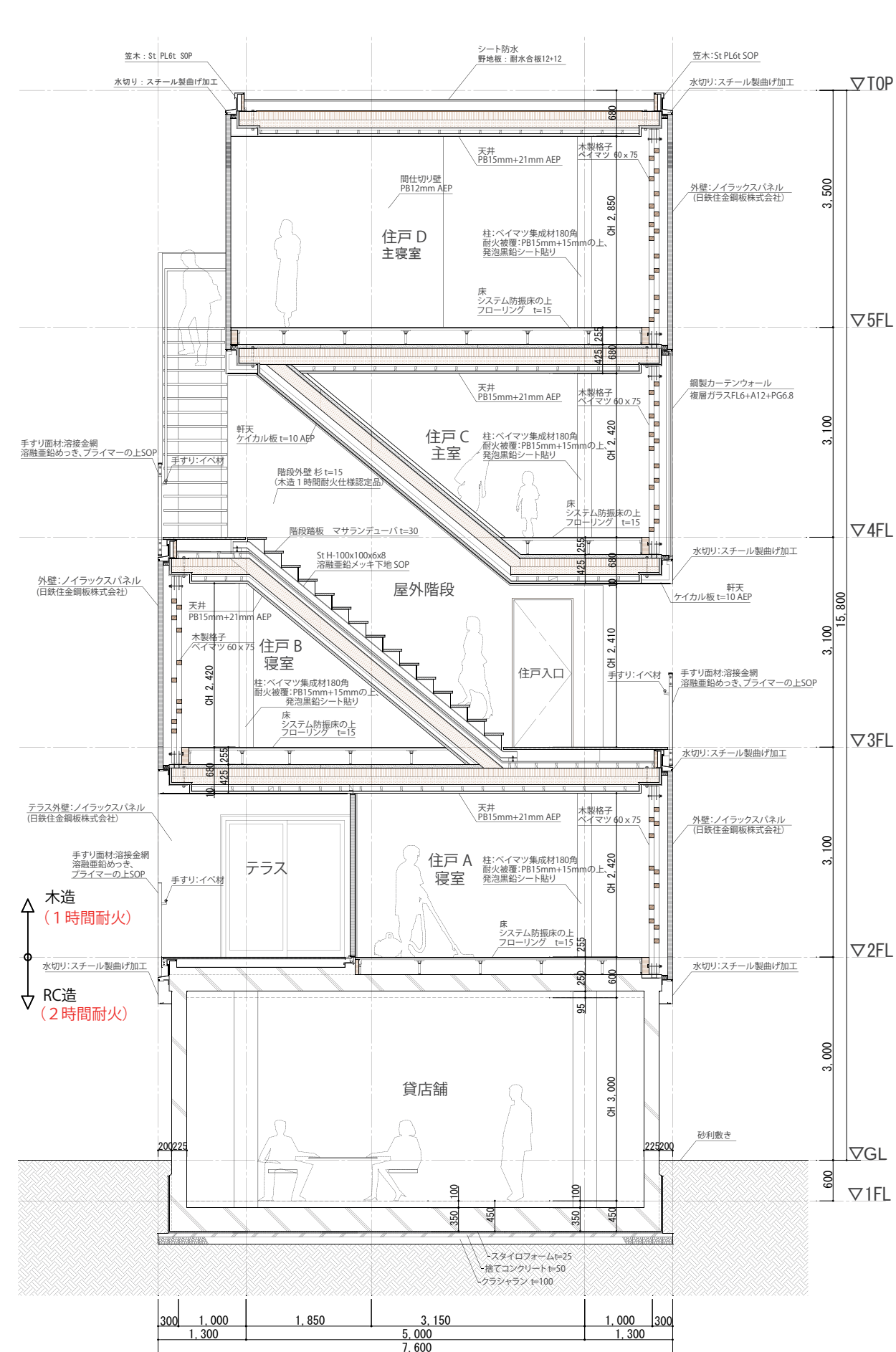
「く」の字型の小さな敷地は、交通量の多い幹線道路と静かな区道に面している。境界線一杯に建つ3階建住宅に両側を挟まれながらも、街路樹や隣家の緑豊かな庭という“借景”に恵まれ、南に広がる住宅地の屋根の向こうには高架を走る電車が見える。敷地を取り巻くこれらの環境を住まう人々が共有できるよう、ボリューム外周にぐるりと彫り込んだ共用階段で各階住戸を繋ぐ形式とした。その結果生まれた二つの玄関を持つ住戸平面や都市に開かれたコモンスペースが、各戸の住まい方のみならず、住人同士の関係性にも変化をもたらしてくれることを期待している。



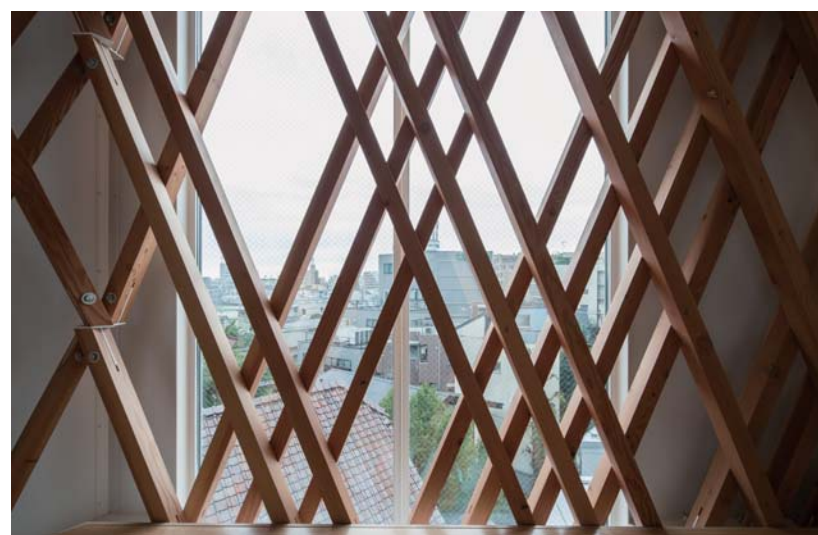
北立面図（駒沢通り側） 西立面図A 西立面図B 南立面図（区道側）
立面図 S=1/250



配置図（1階平面図） S=1/250



断面図 S=1/80



〔木をあらわにした被覆型の耐火木造〕

5階建ての建物では1階部分は2時間、2階～5階は1時間の耐火性能が要求される。そこで1階はRC造、2階～5階を耐火木造とした。木造部は120ミリ厚の杉集成材を繊維方向を直交させて重ねた厚さ240ミリのマツシブホルツスラブの床を集成材の柱で支える、フラットスラブ構造で、EVシャフトまわりの耐力壁と建物外周の斜め格子が水平抵抗要素として働く。火災時の崩壊防止を担う部材（柱・床・屋根・壁）と地震時の水平力に抵抗する部材（斜め格子）を明確に分け、柱・床・屋根・壁を被覆し万が一焼失しても建物の崩壊につながらない斜め格子を無被覆として、木に触れることのできる耐火木造を実現した。木の斜め格子が、鉄とコンクリートの街並みに豊かな表情をもたらしている。



隣家からみる。



主室・ダイニング・キッチン



集合住宅エントランス



道路の延長としての屋外階段、外壁は杉羽目板



主室・ダイニング・キッチン